

海況速報

平成9年度 第2号(通算 No.56)
平成9年7月7日
北海道立水産試験場

内容についての問い合わせは

中央水試海洋部 0135-23-4020

5月下旬～6月中旬の海況

【日本海海域】

津軽海峡西方から本道西岸沖を北上する対馬暖流の流量は、前回(4月)より増大しましたが、1989年以降の同期(6月)の比較では少ない状態にあります。したがって、前年10月以降、今回までこの流量は依然少ないまま推移しています。

津軽海峡西方北緯41度30分線上での対馬暖流の幅は累年平均並ですが、津軽海峡を太平洋側に抜ける津軽暖流に、海峡西口の北側から対馬暖流が引き込まれるかたちになっていて、本道西岸沖を北上する対馬暖流は、檜山沿岸では特に幅が狭く、奥尻島と檜山沿岸の間を流れています。積丹半島北西沖に暖水渦(中心:200m層水温4℃以上)があり、前回岩内沖に見られたものがやや北に移動したように見えます。

水温について見ると、北緯42度30分線以北の海域では暖水渦内を除き、各層とも累年平均(*1)に比べ-3～0℃の範囲内にほとんど入り、水温は低い状態にあります。津軽海峡西方から北緯41度30分線では、表面水温は累年平均に比べ-2～-0.5℃と、北緯42度30分線以北の海域と同様に低くなっています。松前沿岸、津軽海峡西口の北側の50m以深の水温は、累年平均に比べ約-4℃と非常に低くなっています。

余市における5月中旬から6月下旬までの沿岸水温(旬平均)は平年値に比べ、-1.2～-0.2℃と「やや低い」から「平年並み」の範囲内になり、前回の「やや低い」から「かなり低い」の状態から回復傾向にあります。

【道東太平洋海域】

前回(4月)、北緯41度以北の海域にまで入り込んできた大きな暖水塊(中心:200m層水温8℃以上)は依然勢力を保ち続けています。この暖水塊は、前回では西北西-東南東方向に長く伸びた形をしていましたが、今回は円に近い形になりました。また、中心位置もやや東側に移動しました。このため、襟裳岬近くでは前回より沿岸親潮(*2)の範囲が広がりましたが、親潮の本流(*3)や沿岸親潮の一部は、前回同様に、暖水塊の東側を南下しています。

水温について見ると、暖水塊内を除いた道東沖の親潮水域内全体では、各層とも累年平均に比べ-2～0℃の範囲内にあるところが多く、累年平均並からやや低い範囲にあるところが多くなっています。

【道南太平洋海域】

今回は、道南太平洋海域全体で水温5℃以下のところがわずかしくなく、前回（4月）同様親潮の影響が少なく、津軽暖流の影響が強いようです。

水温について見ると、津軽暖流の水温が最高を示す下北半島近くでは、100m層以浅で水温が、累年平均に比べ、-1～0℃と累年平均並からやや低い範囲にあります。これ以北の海域では、表面で累年平均に比べ、-2～0℃の範囲が多く、累年平均並からやや低い範囲にあるところが多くなっています。そして、深くなるに従い、水温の累年平均からの偏差が正の方向になり、200m層水温は、累年平均に比べ、1.5～3.5℃の範囲内になり、かなり高いから非常に高い状態になっています。これは、道東海域からこの海域に流れてくる親潮の流量が、深いところで少なくなっていることが原因していると考えられます。

【オホーツク海海域】

特徴的なところとして、表面の冷水帯は、前年同期（平成8年6月）、前々年同期（平成7年6月）にはありましたが、今期はまだ形成されていません。また、沿岸部の表面では、前回（4月）より昇温していますが、沖合と同じ4℃以下のところが紋別から網走湾にかけて見られることから、宗谷暖流はまだ紋別以西までしか表面を流れていません。50m層でも、たとえば水温5℃以上の宗谷暖流が、前回は宗谷海峡からサロマ湖沖まで達していたのに、今回は東経143度付近までしか達していません。そのかわり、前回宗谷暖流の潜流がはっきりしていなかった100m層で、今回は網走湾沖まで宗谷暖流の潜流が見られます。このように、宗谷暖流の潜流が流れる深度がさらに深くなり、また、宗谷暖流がオホーツク沿岸を浮上して流れる時期が遅れているため、50m層では、東経143度10分からサロマ湖くらいにかけて、沖合から冷水が沿岸に入り込み、前回より水温が下がる現象が起きています。

水温について見ると、累年平均に比べ、沖合の表面で-4～-2℃、沿岸では-7.5～-2.5℃と、沿岸部で特に低い水温になっています。50m層以深では、累年平均に比べ、沖合で-0.5～0℃のところが多く、沿岸では-7.5～-0.5℃で、東経143度以東の沿岸部で水温の非常に低いところが多くなっています。

資 料 〔観測期間〕

稚内・網走水試（北洋丸）	平成9年6月3日～同6月5日（オホーツク海海域）
釧路水試（北辰丸）	平成9年5月27日～同6月2日（道東太平洋海域）
函館水試（金星丸）	平成9年5月26日～同5月28日（道南太平洋海域）
函館水試（金星丸）	平成9年6月3日～同6月8日（東北日本海海域）
中央水試（おやしお丸）	平成9年5月26日～同5月30日（道西日本海海域）
中央水試（おやしお丸）	平成9年5月31日～同6月2日（道北日本海海域）
中央水試（北洋丸）	平成9年6月9日～同6月12日（道北日本海海域）

*1: 平成元(1989)年～平成8(1996)年までの平均値を使用しました。

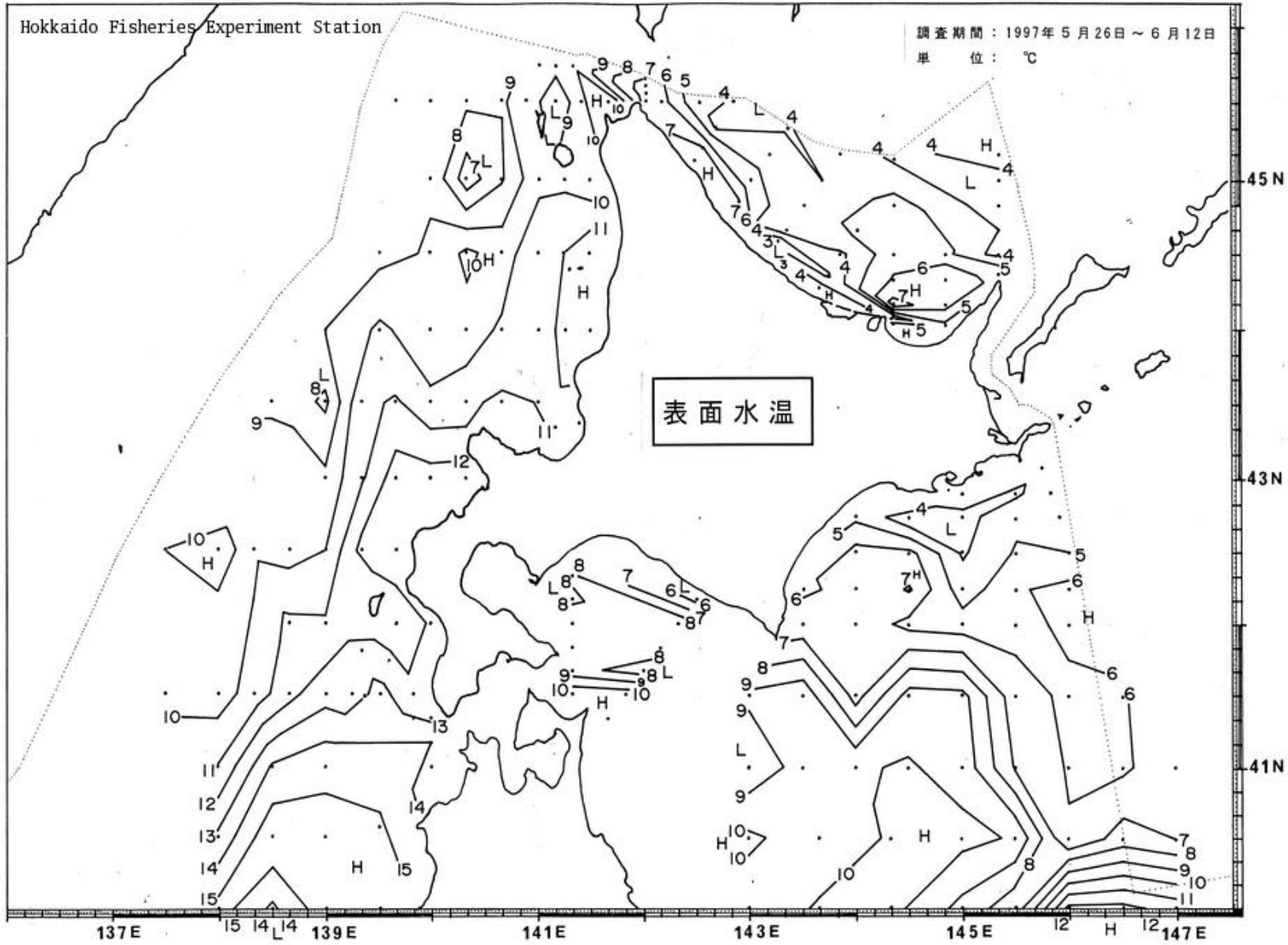
*2: オホーツク海の流氷の融氷水を含む親潮として特に沿岸親潮という名前が付けられています。

*3: たとえばこの場合、200m層水温3℃以下の範囲あたり。

Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1997年5月26日～6月12日
単位：℃

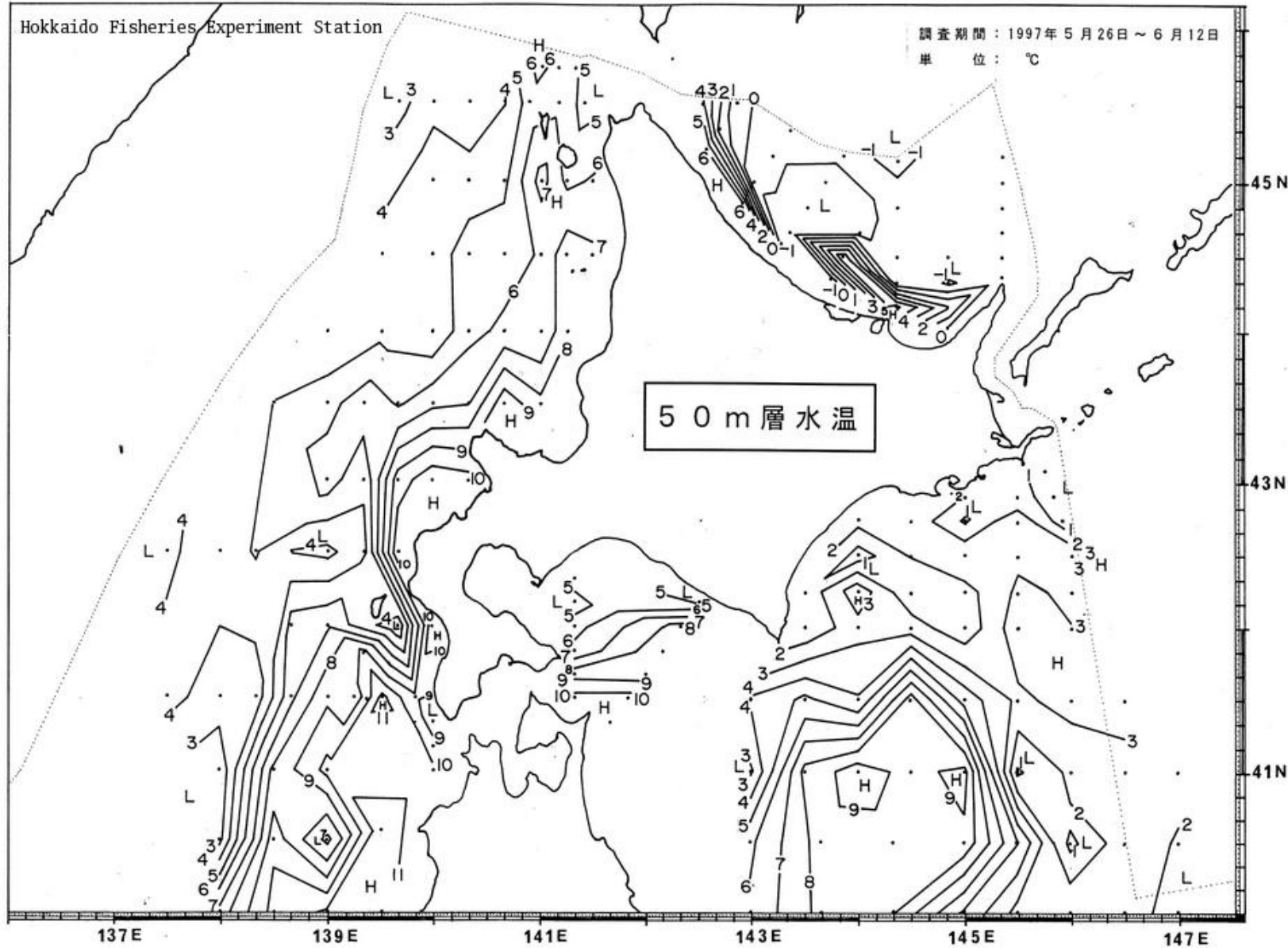
表面水温



Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1997年5月26日～6月12日
単位：℃

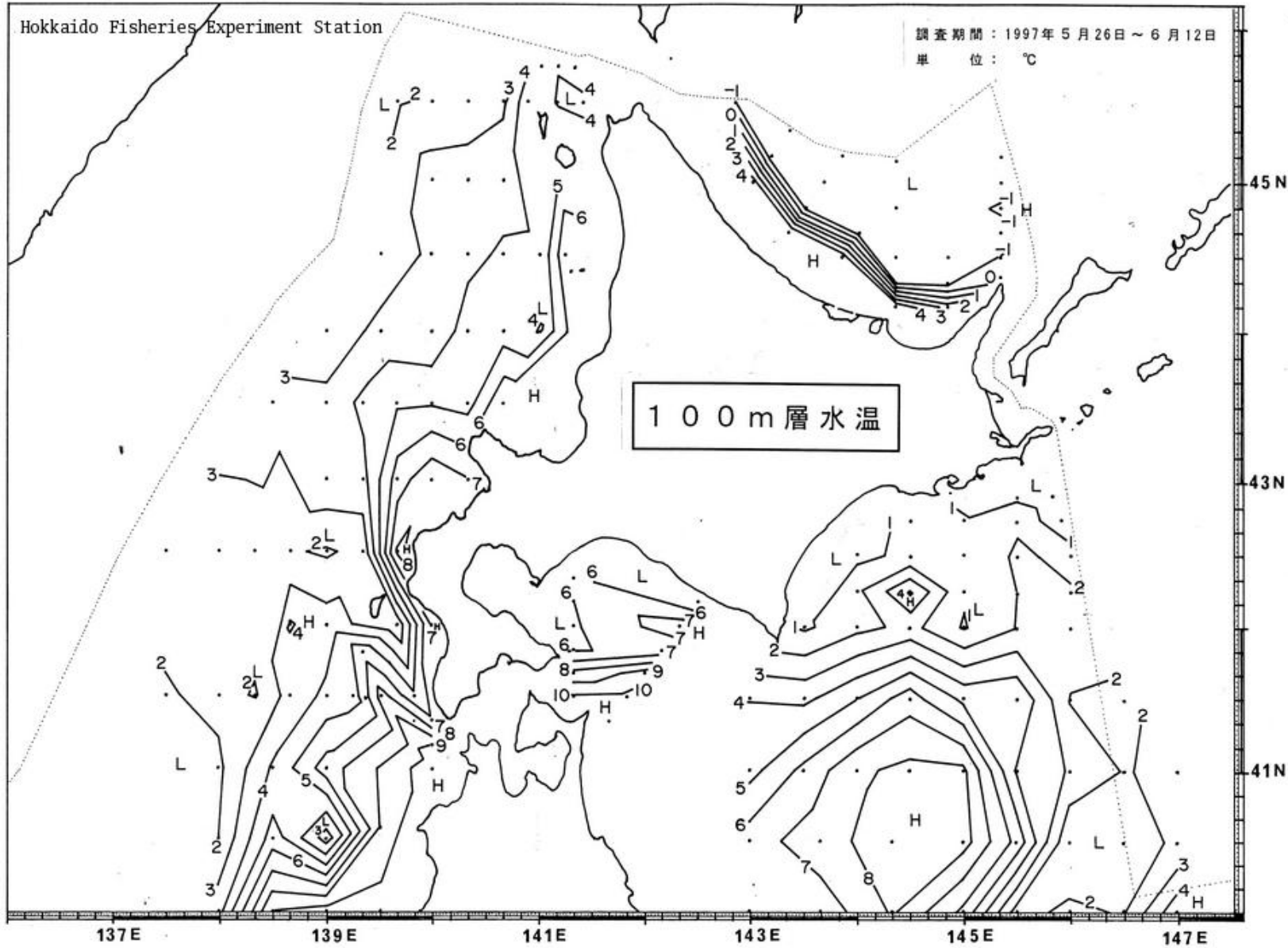
50 m 層水温



Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1997年5月26日～6月12日
単位：℃

100m層水温



137 E

139 E

141 E

143 E

145 E

147 E

45 N

43 N

41 N

Hokkaido Fisheries Experiment Station

調査期間：1997年5月26日～6月12日
単 位：℃

200m層水温

